

七ヶ谷地区 住民アンケート 分析レポート

～結果から何ができてくるか？～

平成29年11月

NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

七ヶ谷

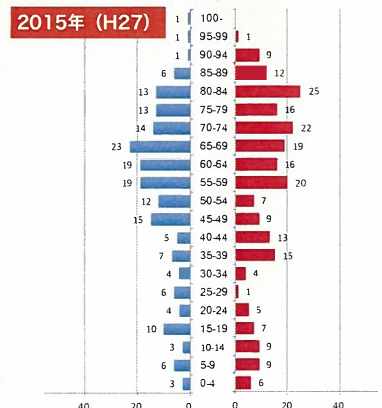
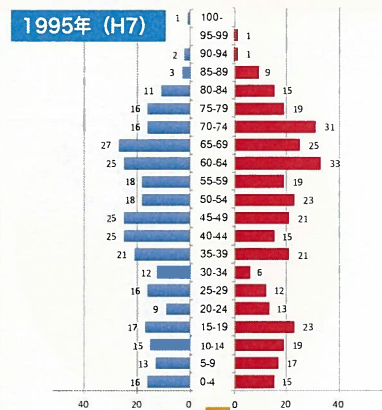
国勢調査データから見る過去20年間の人口推移

	国勢調査データ				独自推計値	
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年※
総人口 (人)	644	585	540	468	410	355
	20年間で36.3%減少				▲ 55	
0～14歳 (人)	95	79	70	47	36	29
	20年間で62.1%減少				▲ 7	
15～64歳 (人)	372	307	280	241	198	161
	20年間で46.8%減少				▲ 37	
65歳～ (人)	177	199	190	180	176	165
	20年間で0.6%減少				▲ 11	
高齢化率	27.48%	34.02%	35.19%	38.46%	42.93%	46.42%
(再掲) 75歳～ (人)	78	95	104	114	98	90
(再掲) 85歳～ (人)	17	22	23	38	31	35

※国勢調査データを基に都岐沙羅パートナーズセンターが独自に推計した数値

(参考) 2015年の高齢者率 新潟県平均：29.85%/全国平均：26.63%

七ヶ谷地区の人口ピラミッドの推移

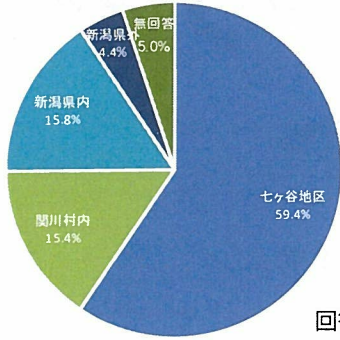


七ヶ谷地区も急激に少子高齢化が進展している！

中学生以上の全住民アンケートの実施

回収数：298通

回収率：約75%



回答者属性 (出生地別)

かなりの高回収率！

↓
地域住民の意向がしっかりと反映されているデータである

七ヶ谷地区 住民アンケート

- 本アンケートは、住民一人一人の考えを把握し、世代別・男女別に日頃思っている考え・意見を整理するため、中学生以上の方に対して行っています。
- 回答は無記名でお願いいたします。
- 回答の結果は、個人を特定しない形で集計・分析し、今後の地域づくりに役立てていきます。
- アンケート用紙は、一人ひとり提出していただきますので、家族で意見が違っても構いません。思ったことをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。

(年齢) 1. 10～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

(性別) 男性 女性

問2 あなたの生まれたところはどこですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 七ヶ谷地区 2. 関川村内(七ヶ谷地区を除く) 3. 新潟県内 4. 新潟県外

問3 あなたの仕事にあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 農業	2. 林業	3. 漁業
4. 自営業	5. 会社員	6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト	8. 専業主婦(夫)	9. 中学生
10. 高校生・高専生	11. 大学生・短大生・専門学校生	
12. その他()	13. 無職	

*学生及び仕事されている方は、以下もお答えください。

問3-2 休日はいつですか？(祝日を除く)

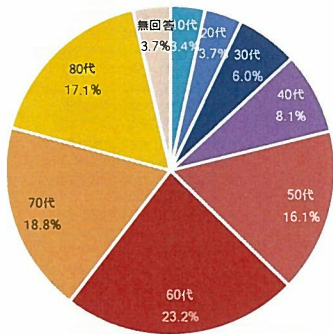
1. 土曜(毎週)と日曜 2. 土曜(隔週)と日曜 3. 日曜のみ
4. 平日 4. 不定期

問4 農林業の作業(手伝いも含む)をしていますか。あてはまるものに○をつけてください。

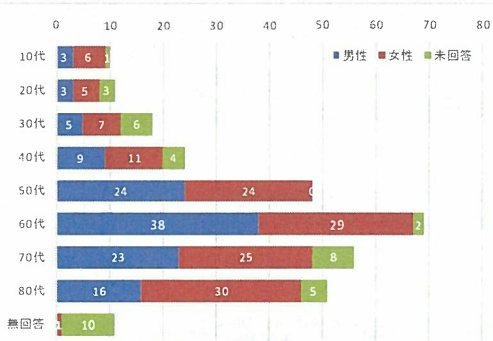
1. 作業をしている 2. 作業をしていない

回答者属性

回答者属性 (年代別)

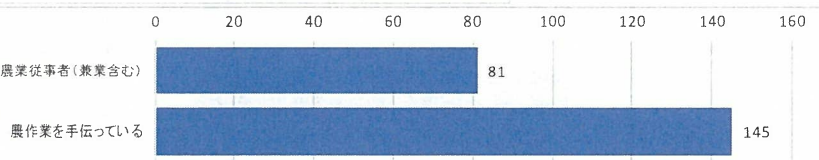


回答者属性 (年代別×男女別)



若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。

↓
世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！

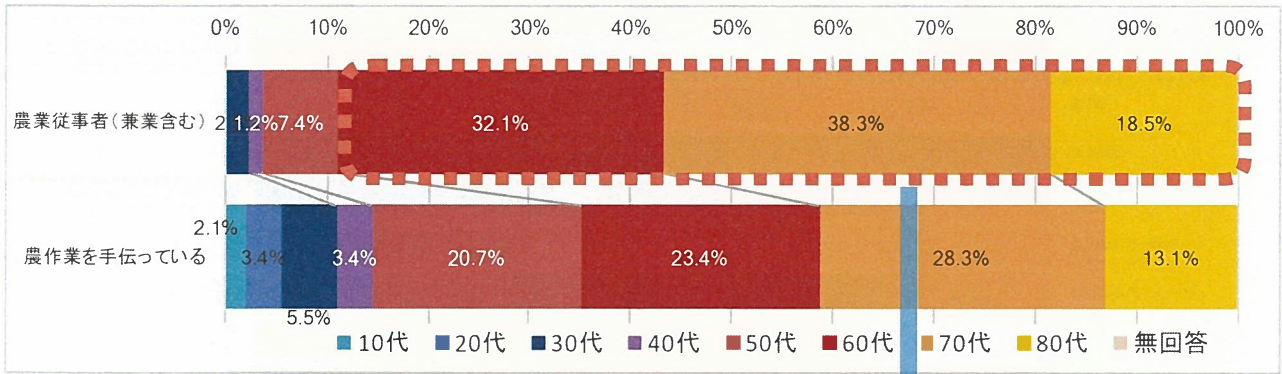


農業従事者の年代構成 (割合)



回答者属性 (職業)

農業従事者の年代構成



農業従事者の年代構成 (人数)

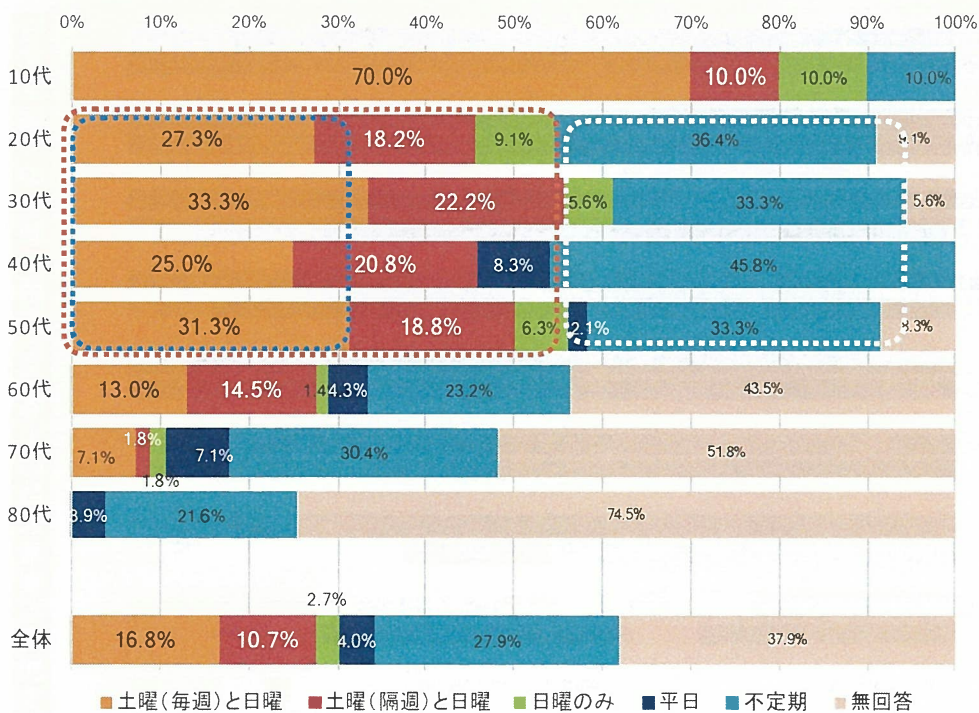
年代	人数
10代	0
20代	0
30代	2
40代	1
50代	6
60代	26
70代	31
80代	15
計	81

農業従事者の88.9%が60代以上

農地の維持管理はどうなりますか？

20年後は25人程度!?

休日はいつか？ (年代別)



20~50代

土曜日が毎週休み

約3割

日曜日が毎週休み

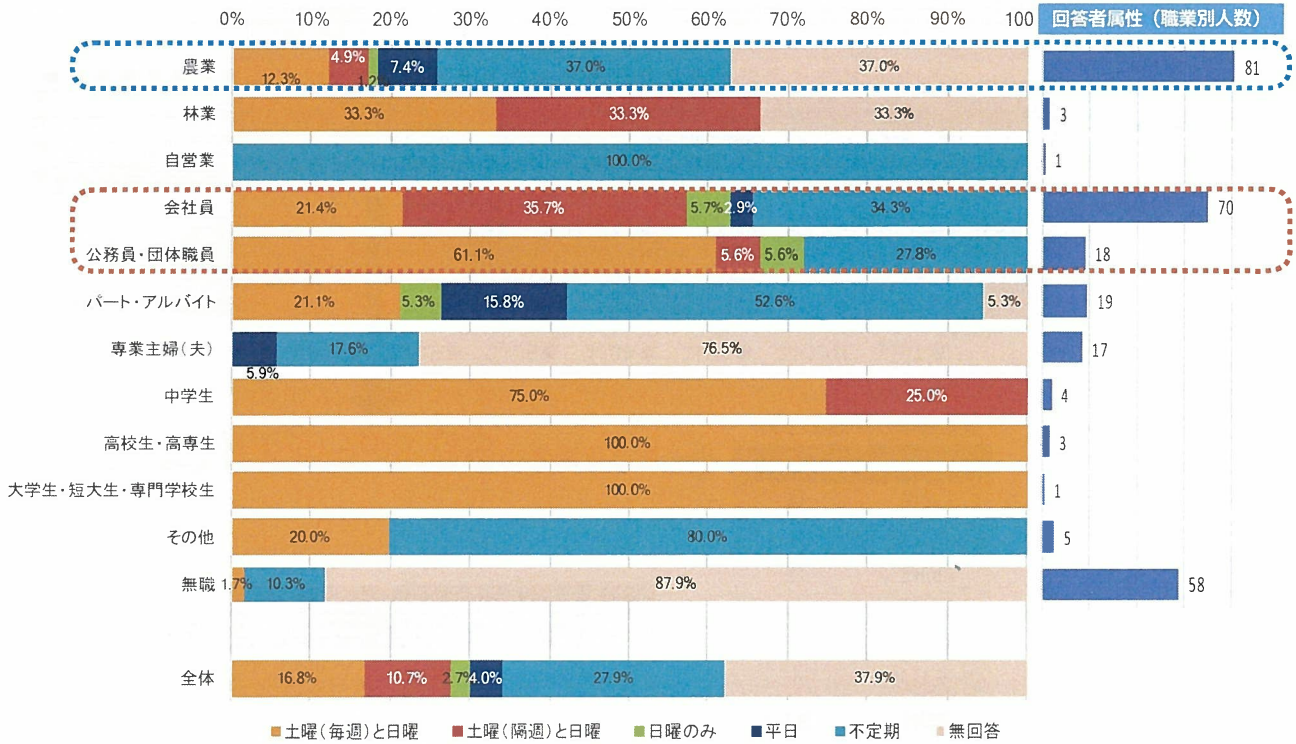
約5割

休みが平日・不定期

約4割

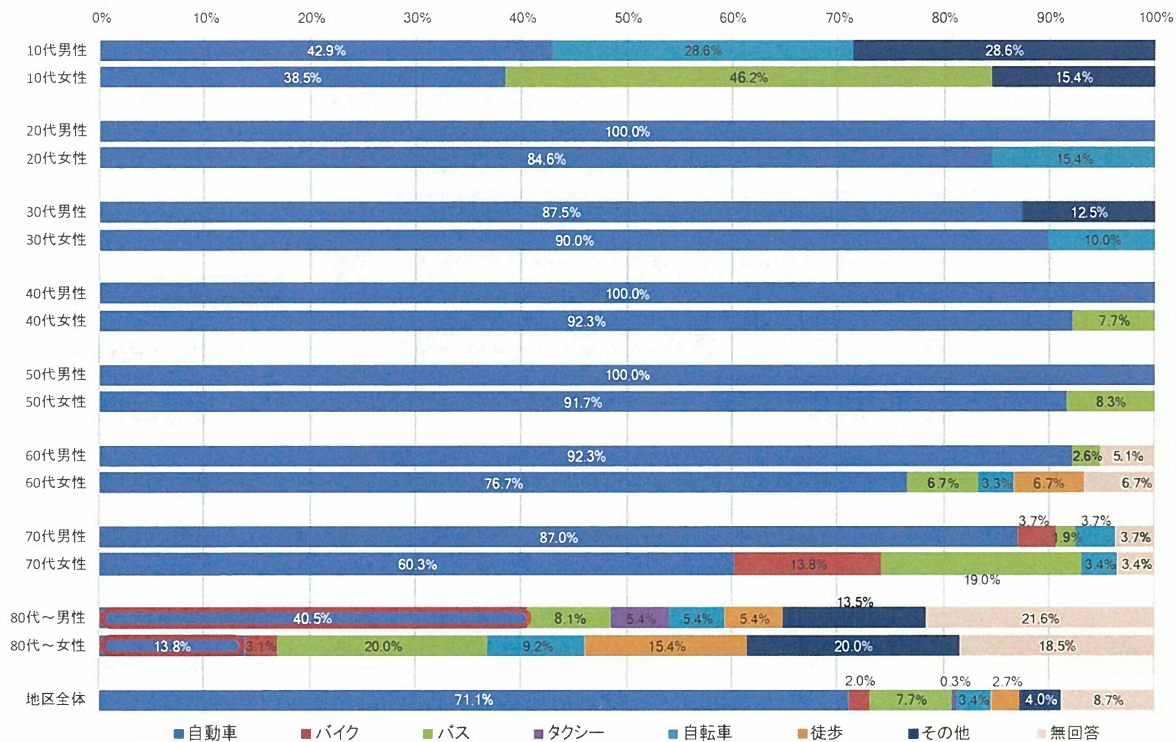
この世代の参加を求めるのであれば、配慮が必要！

休日はいつか？（職業別）



当たり前ではあるが職業によって休日は異なる → 行事・共同作業の曜日設定に配慮が必要

年代別・男女別の日常的な交通手段

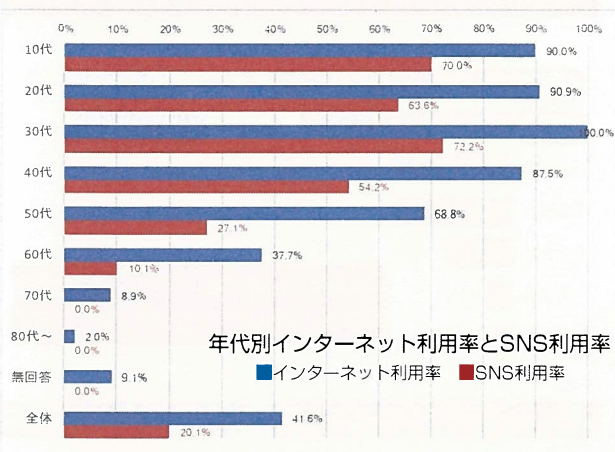


日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

80代になると自分で車の運転をする人の割合が急減 → **要確認** この方々の運転免許保有率は？ → 低い：交通弱者急増…15~20年後？ 高い： // 急増…10年以内？

インターネットの利用割合

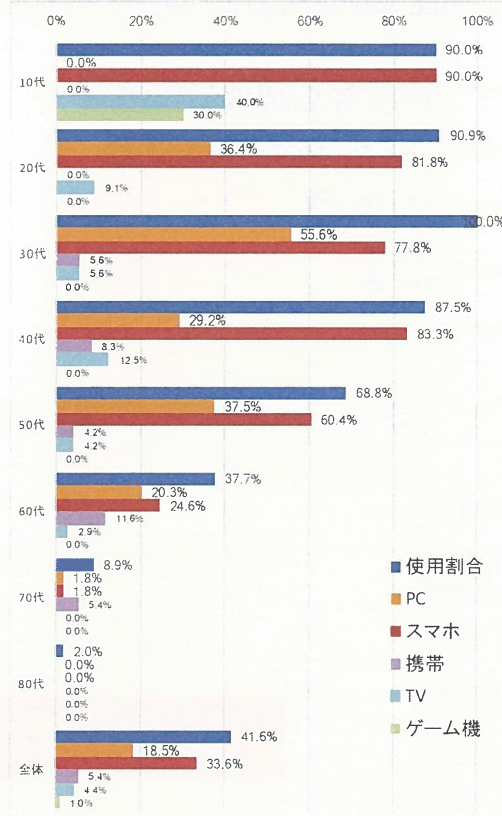
年代別インターネットの利用率



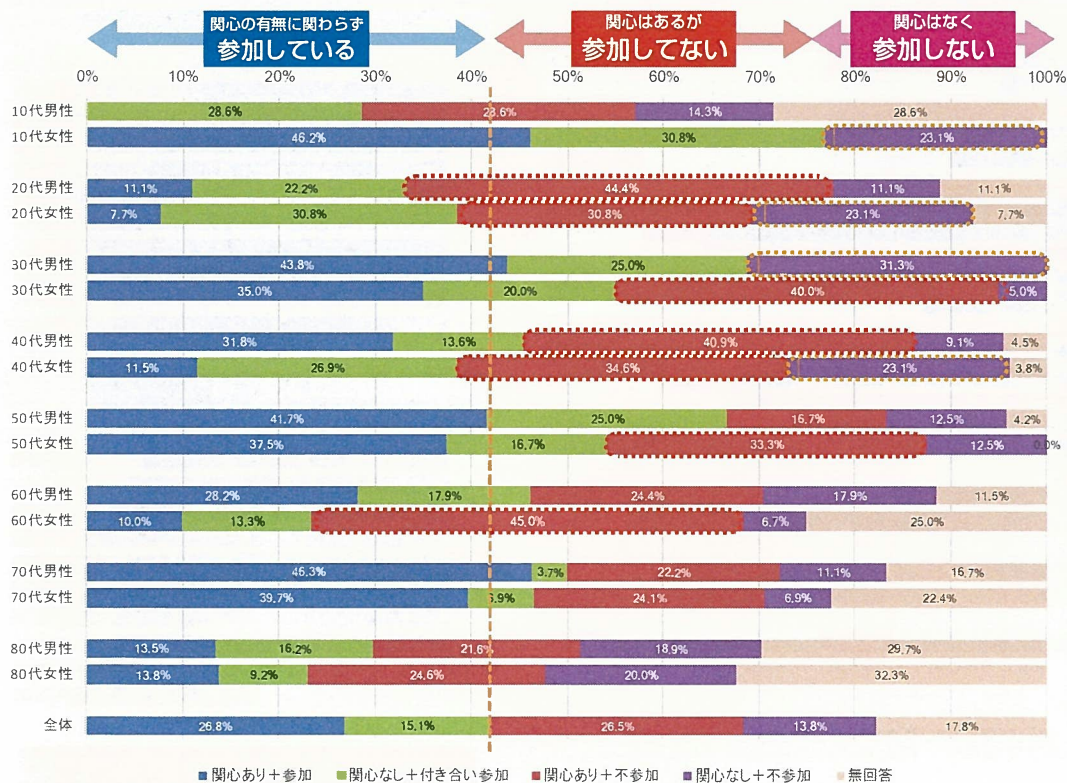
- 全体の約4割がインターネットを利用。
- **40代以下は約9割**がインターネットを利用。(50代でも約7割)
- **大半がスマホ・携帯**で利用しており、若い世代ほどその割合は高い。
- 30代以下は**3人に2人以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

年代別インターネット利用における使用機器



地域活動への関心



【注意！】
10～30代は「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べて高い！

(全世代で1位)
30代男性：31.3%
(全世代で2位)
10代男性
20代女性
40代女性 23.1%

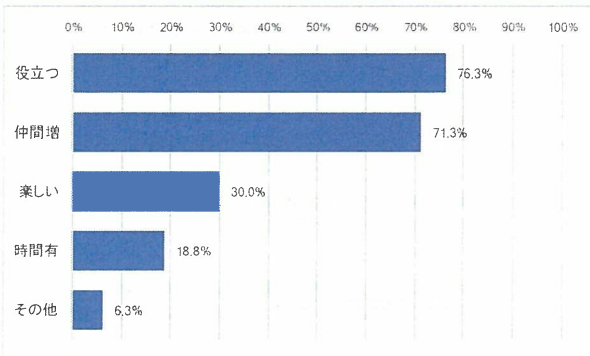
特に
20代男性 (44.4%)
30代女性 (40.0%)
40代男性 (40.9%)
60代女性 (45.0%)

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではない

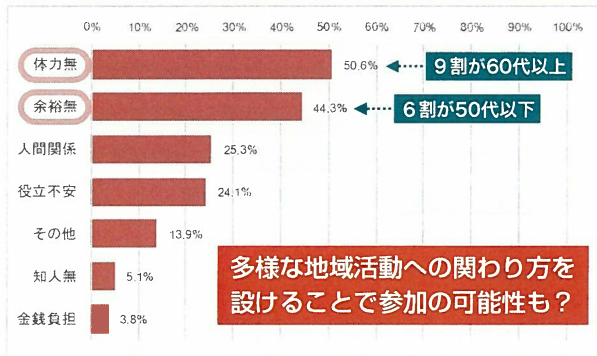
「関心があっても参加していない」割合が高い世代には、その理由を探ることが大切！

地域活動への関心 (それぞれの理由) ※複数回答

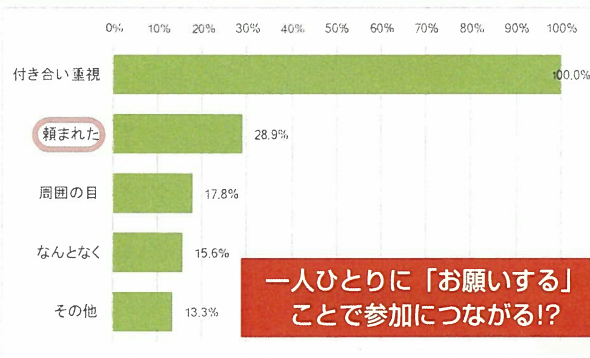
関心あり+参加の理由 (回答数80)



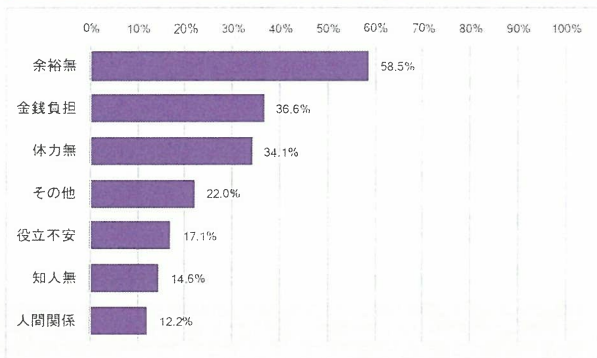
関心あり+不参加の理由 (回答数79)



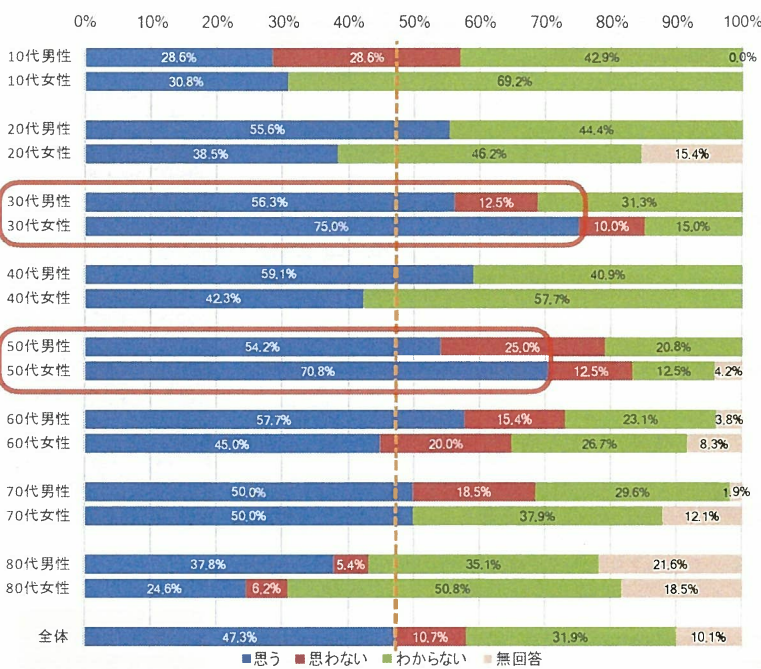
関心なし+付き合い参加の理由 (回答数45)



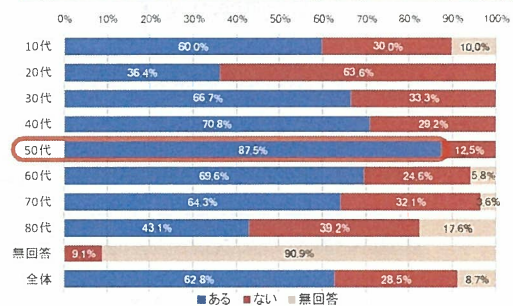
関心なし+不参加の理由 (回答数41)



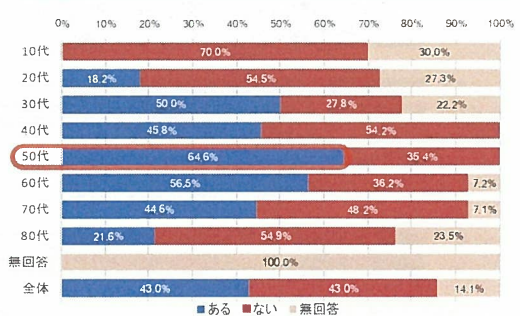
女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別)



会議等に出席したことがあるか?



役員経験の有無



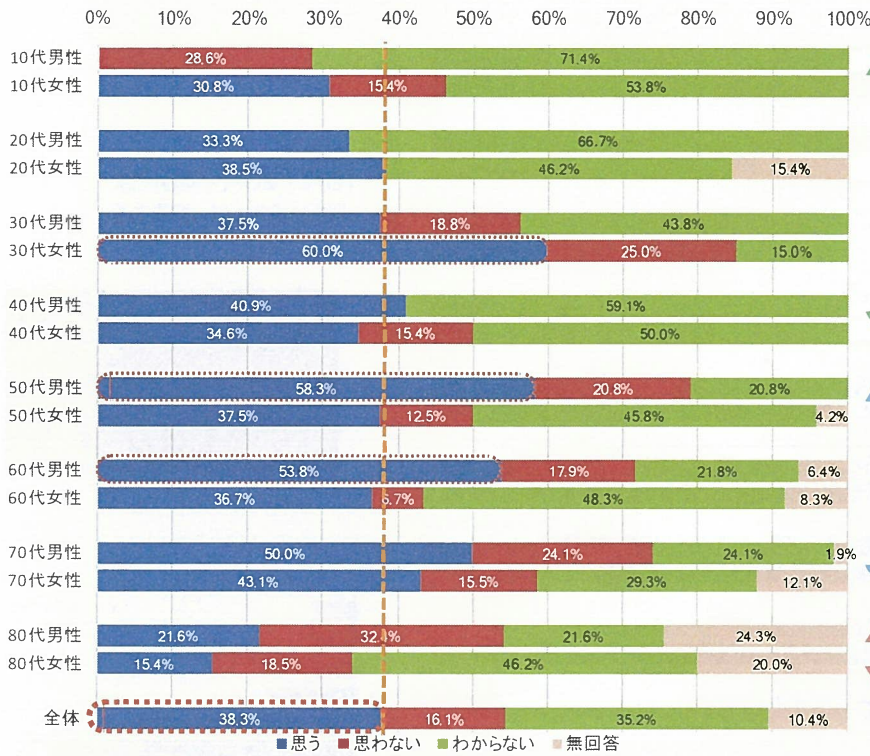
地域全体では、約半数が「必要」と思っている

30代・50代 (特に女性) は必要の割合が高い

→会議等のあり方を変えていく必要があるのでは?

次の世代の方々は、
もっと自分たちの声を反映してほしい!
と切望している!?

定住受入の必要性 (年代別×男女別)



「わからない」が多い世代

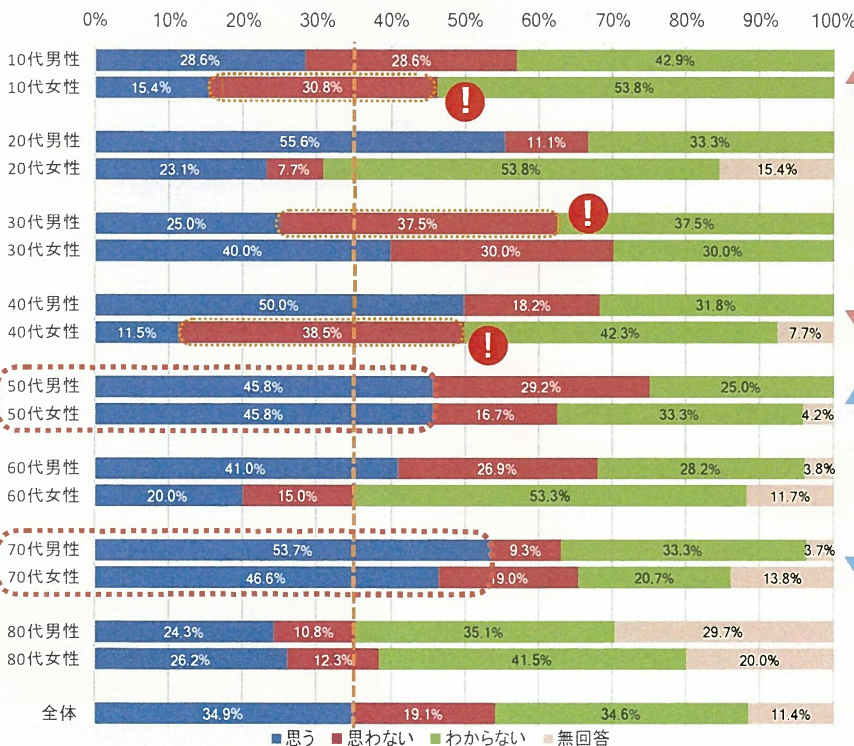
移住・定住の受入は、**50・60代男性、30代女性**は求めているが、それ以外の世代は「わからない」が多数派

男性：「必要」が多数
女性：「わからない」が多数

男性：「不要」が多数
女性：「わからない」が多数

地域全体では1/3以上が「必要」だと思っている。ただし、「わからない」と意見もほぼ同じ割合。

他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)



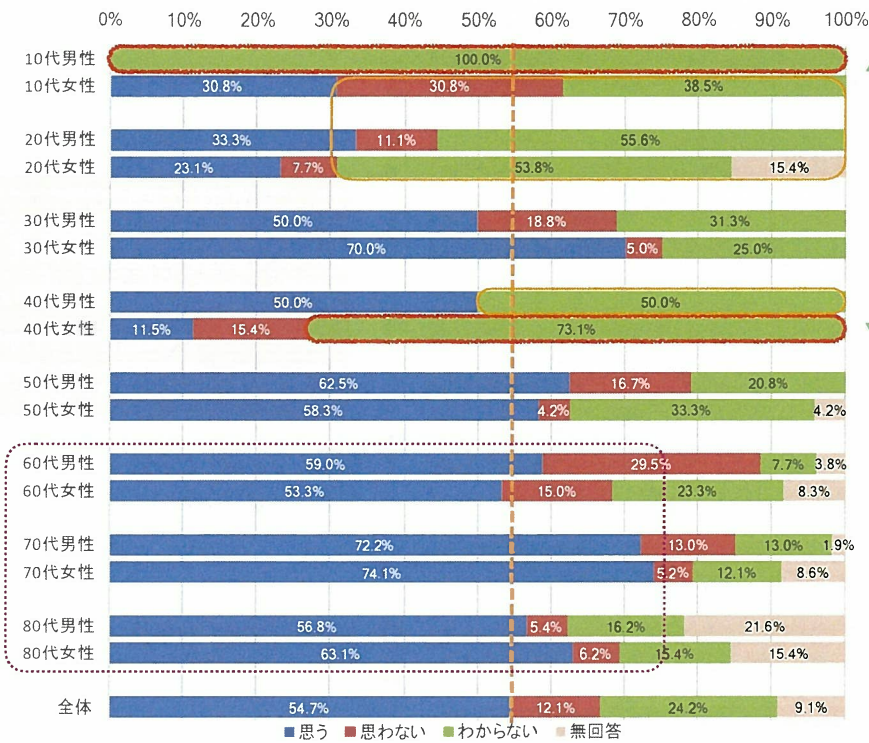
「必要性を感じていない」「わからない」の割合が高い。

「必要」という割合が高い

他地域交流の必要性は**若低・壮高**という傾向

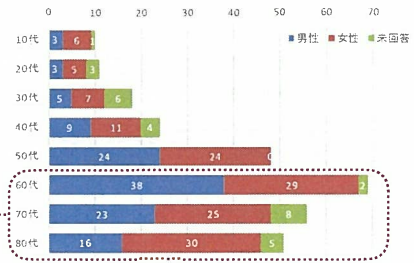
地域全体では1/3が「必要」だと思っているが「わからない」もほぼ同割合。

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)



10代・20代・40代は「わからない」が最も多い

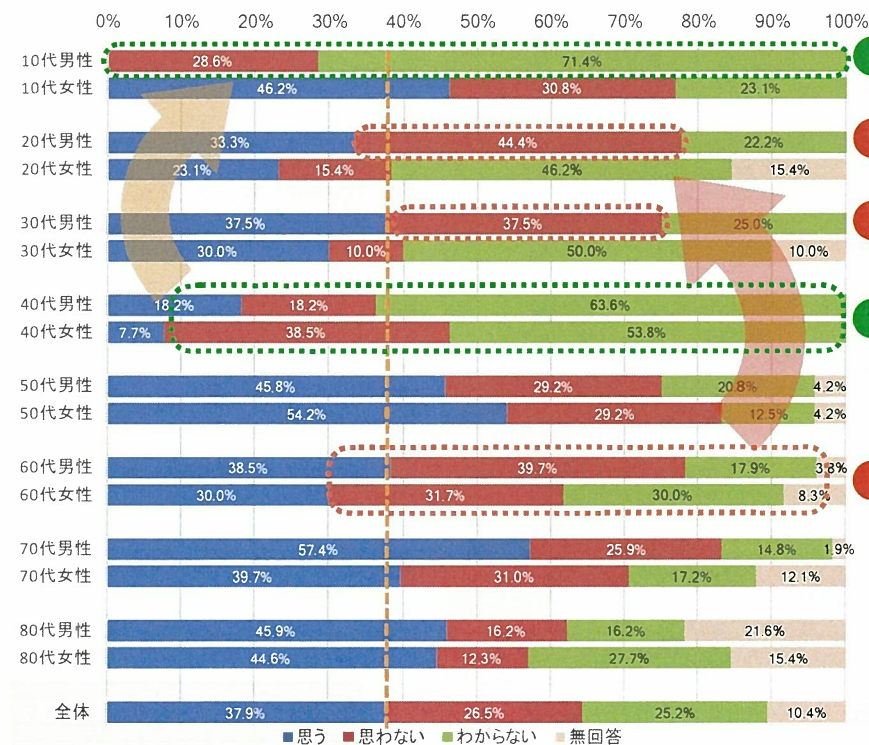
【注意！】
このままだと、人口減少はさらに加速する可能性が非常に高い。



多数派の意見が色濃く反映されている

地域全体では「住み続けたい」が54.7%だが、40代以下の大半が「わからない」と回答している。

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ (年代別×男女別)



！ 「わからない」が最も高い

！ 「思わない」が最も高い

！ 「思わない」が最も高い

！ 「わからない」が最も高い

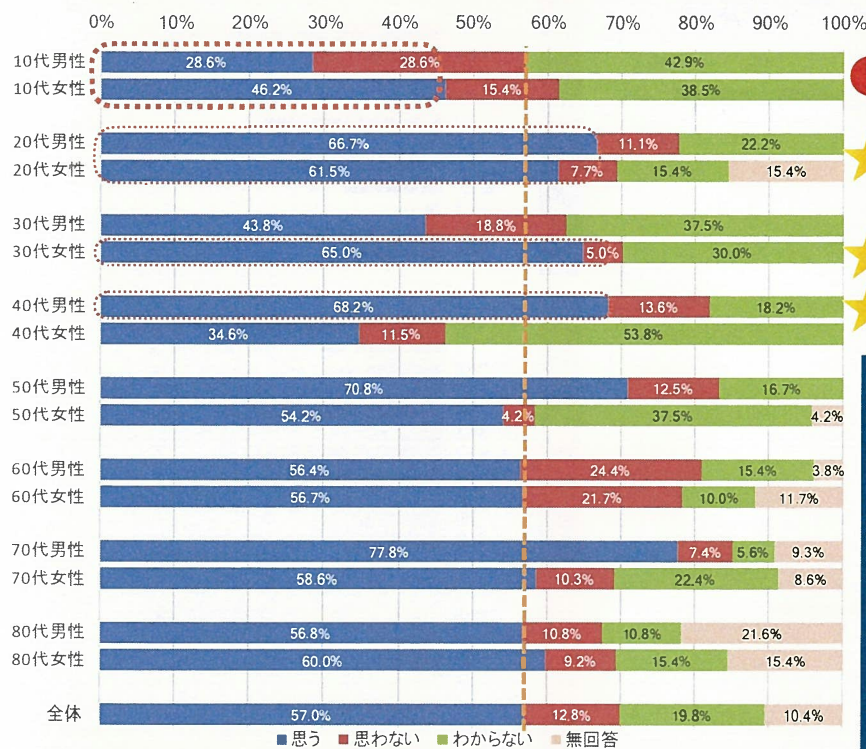
！ 「思わない」が最も高い

【注意！】
親の考え・想いが、子に影響しているのではないかと？

【注意！】
このままだと、人口減少はさらに加速する可能性が非常に高い。

地域全体では「住み続けてほしい」が37.9%
40代以下は「思わない」「わからない」が上回っている

地域への愛着の有無 (年代別×男女別)



! 10代の愛着は地区平均以下

★ 愛着が地区平均以上の世代

20~40代は、
地域への愛着が
無い訳ではない。
しかし、住み続けるかどうかは
「なんとも言えない」
というのが本音。

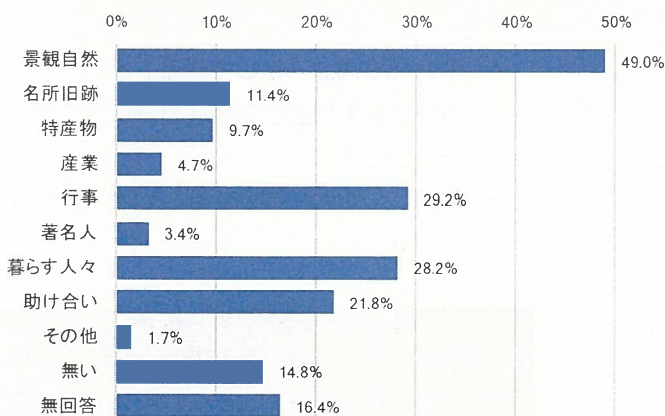
「愛着がある」は57.0%

※30代女性は自らの定住意向、地域への愛着が高く、定住受入・他地域交流にも積極的

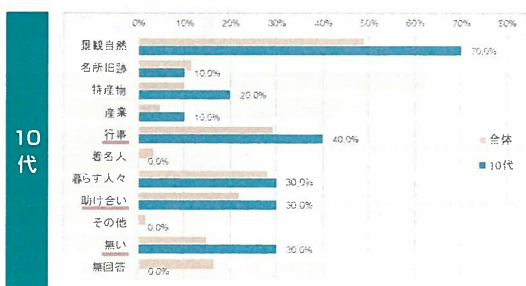
「住み続けたい」と思うような環境を整えることで、将来への可能性を見出すことができるのでは？

誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

地区全体 (複数回答)



■ 地区平均よりも高い
■ 地区平均よりも低い



20代



30代



40代

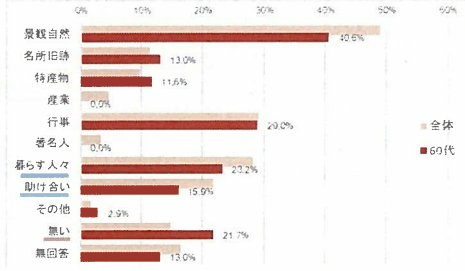


誇りに思う地域資源は何か (50代～)

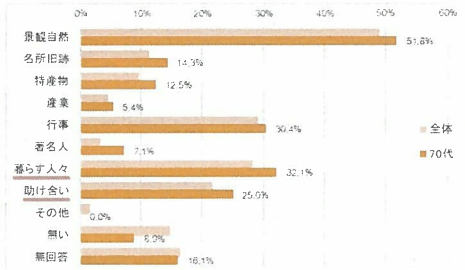
地区全体 (複数回答)



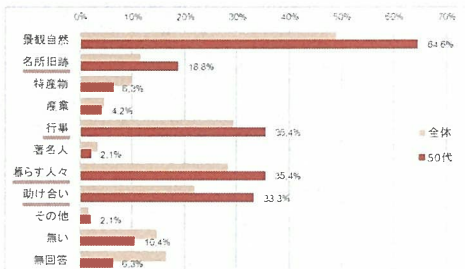
60代



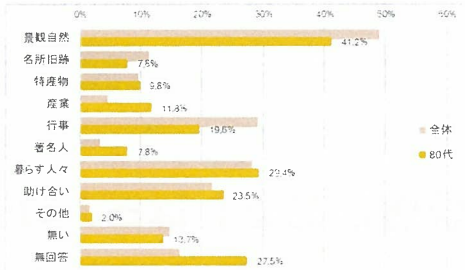
70代



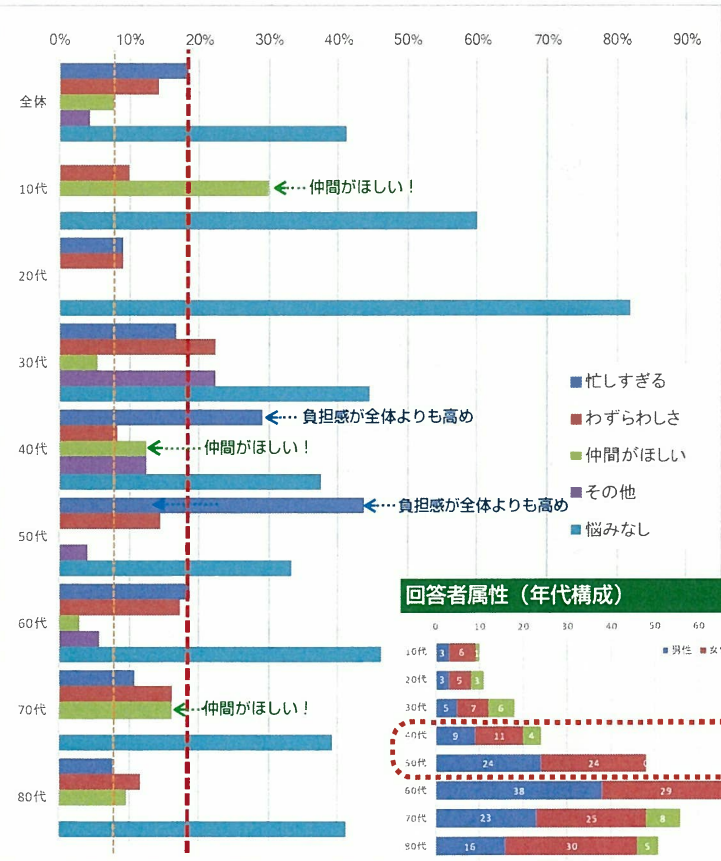
50代



80代



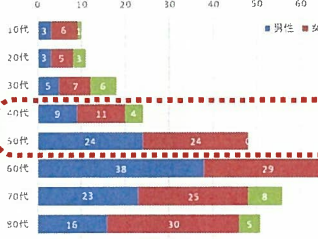
近所づきあいでの悩み



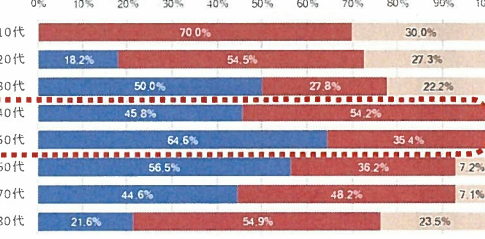
- 地区全体では4割が「悩みなし」
- 40～50代は「忙しすぎる」という悩みが全体平均よりもかなり高い。
- 10代・70代は仲間がほしいという割合が高い。

※人は減っているのに、役割・仕事量が変わっていなければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは確実に回らなくなるのでは？

回答者属性 (年代構成)



役員経験の有無

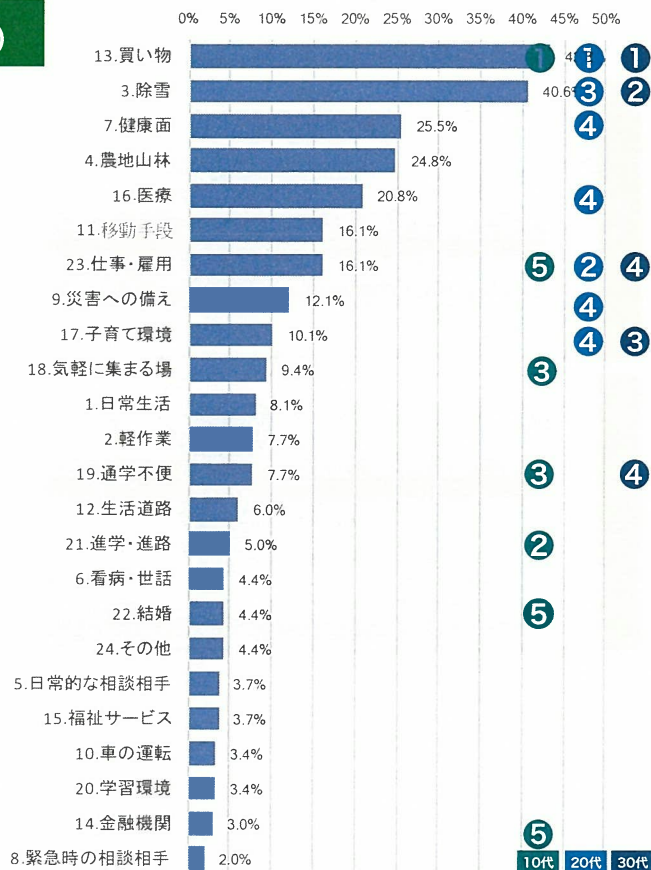


暮らしの中の困りごと（複数回答）

10代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	50.0%
	進学・進路	50.0%
3	仲間と気軽に集まる場所がない	30.0%
	学校が遠く、通学が不便である	30.0%
5	身近に預貯金を引き出せる金融店舗がないこと	20.0%
	結婚	20.0%
	仕事・雇用	20.0%
	その他	20.0%

20代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	54.5%
2	仕事・雇用	36.4%
3	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	27.3%
4	健康面への不安がある	18.2%
	災害への備えや避難	18.2%
	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	18.2%
	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	18.2%

30代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	50.0%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	44.4%
3	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	27.8%
	学校が遠く、通学が不便である	27.8%
	仕事・雇用	27.8%



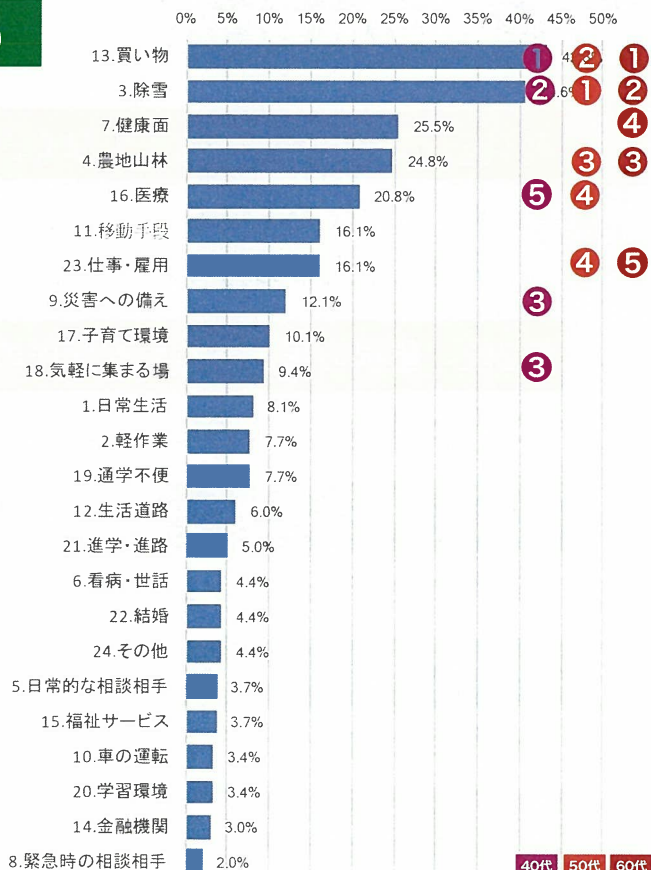
地区全体（複数回答）

暮らしの中の困りごと（複数回答）

40代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	54.2%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	41.7%
3	災害への備えや避難	25.0%
	仲間と気軽に集まる場所がない	25.0%
5	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	20.8%

50代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	52.1%
2	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	47.9%
3	農地、山林の維持管理	41.7%
4	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	29.2%
	仕事・雇用	29.2%

60代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	44.9%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	43.5%
3	農地、山林の維持管理	34.8%
4	健康面への不安がある	23.2%
5	仕事・雇用	18.8%

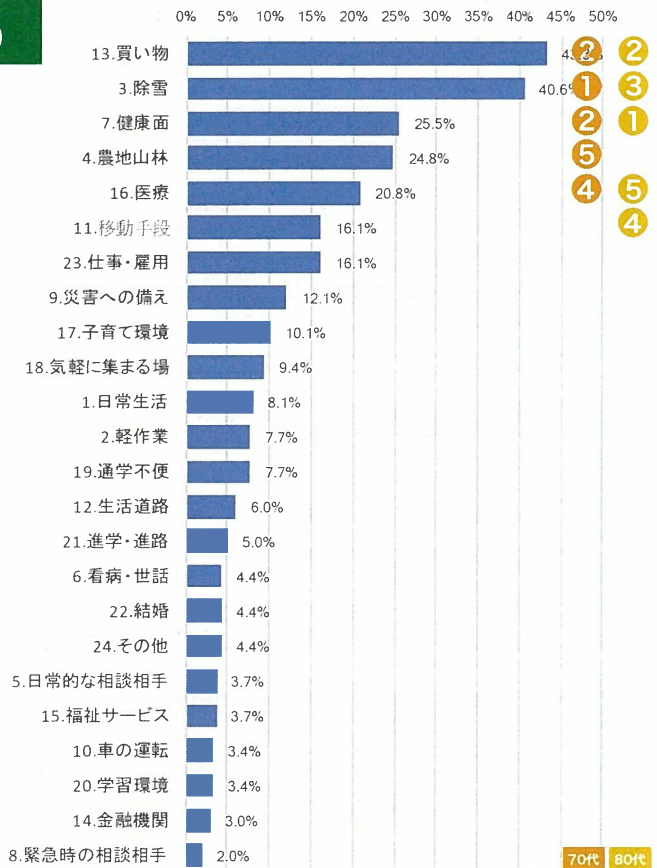


地区全体（複数回答）

暮らしの中の困りごと（複数回答）

70代	
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 48.2%
2	健康面への不安がある 41.1%
	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 41.1%
4	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる 28.6%
5	農地、山林の維持管理 23.2%

80代	
1	健康面への不安がある 43.1%
2	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 35.3%
3	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 33.3%
4	買い物・通院などの移動手段（交通手段） 29.4%
5	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる 21.6%



地区全体（複数回答）

暮らしの中の困りごと（まとめ）

第1位 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 43.3%

すべての世代で1位もしくは2位
→地区の大半の方々がこれを困りごととしてあげている。

第2位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 40.6%

20代以降のすべての世代で上位にランクイン（1位の買い物とは僅差）

第3位 健康面への不安がある 25.5%

60代以上で上位にランクイン

第4位 農地、山林の維持管理 24.8%

50代以上で上位にランクイン

第5位 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる 20.8%

40・50代、70・80代で上位にランクイン

暮らしの中の困りごと (まとめ)

全体での順位は高くはないが、若者・中堅世代特有の困りごと

トップ5には入っていないが、要注意な困りごと

第6位 仕事・雇用。 16.1%

10～30代、50・60代で上位にランクイン

第9位 少子化による遊び相手の確保など子育て環境。 10.1%

20・30代ではこれが上位にランクイン

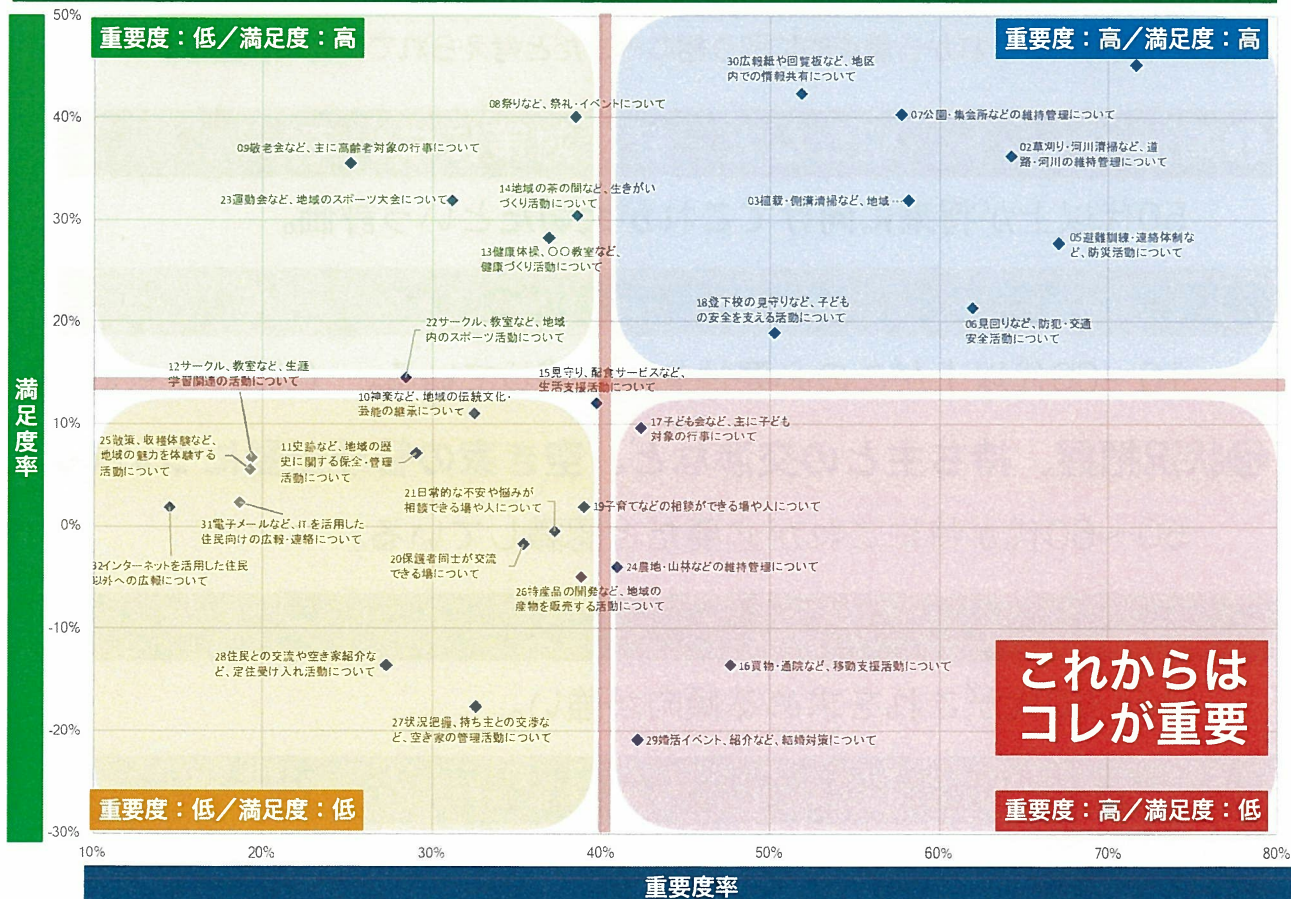
第10位 仲間と気軽に集まる場所がない。 9.4%

10・40代ではこれが上位にランクイン

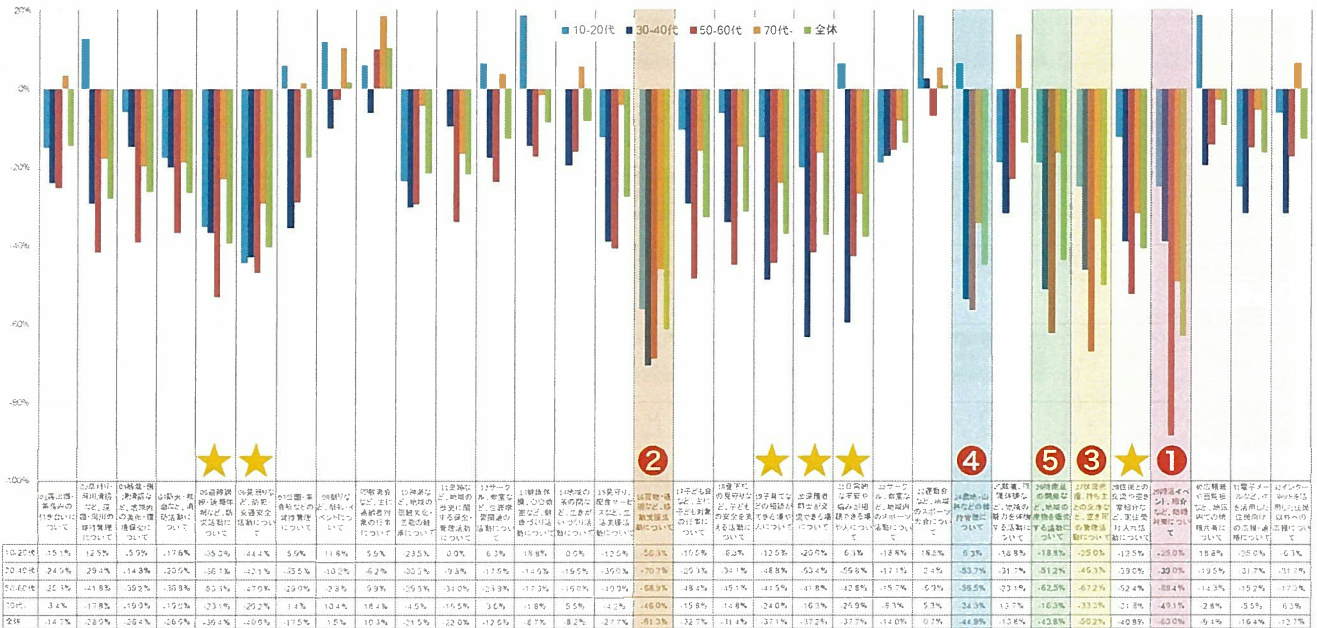
第6位 買い物・通院などの移動手段 (交通手段)。 16.1%

30・70・80代ではこれを困りごとにあげている人が多い。

取り組みの満足度と重要度



取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）



※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある（＝現状では満足しておらず、これからは重要だと思う）項目

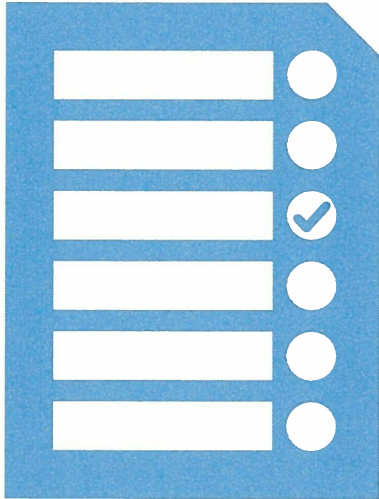
- ①婚活イベント、紹介など、結婚対策について
- ②買い物・通院など、移動支援活動について
- ③状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について
- ④農地・山林などの維持管理について
- ⑤特産品の開発など地域の産物を販売する活動について

取り組みの満足度と重要度の評価（まとめ）

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

- ①婚活イベント、紹介など、結婚対策について
50代以上が将来に向けてこれが大切だという評価。
- ②買い物・通院など、移動支援活動について
10～60代以上がこの必要性を強く感じている。（特に30～60代）
- ③状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について
50～60代が特にこれが必要だと認識している。
- ④農地・山林などの維持管理について
30～60代がこれを求める傾向が強い。
- ⑤特産品の開発など地域の産物を販売する活動について
50～60代がこれを求めている。

◎将来を見据え、力を入れていくべきだと考えられている項目



【30・40代が最も重要だと思っているもの】

保護者同士が交流できる場について（第1位）

日常的な不安や悩みが相談できる場や人について（第2位）

【10～60代が等しく重要だと思っているもの】

★見回りなど、防犯・交通安全活動について

【その他、上位に来ているもの】

★避難訓練・連絡体制など、防災活動について

★見回りなど、防犯・交通安全活動について

★子育てなどの相談ができる場や人について

★住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動について

